

(1 1) 中村南小学校

学 校 長 宮地 由美
校内研究代表者 近森 圭悟

1. 研究主題

「 見方・考え方を働かせ 資質能力を育成する 全員参加型の授業づくり
～思考過程の可視化と共有の工夫を通して～」

2. 主題設定の理由

本校は昨年度、研究主題を刷新し、『見方・考え方を働かせ、資質能力を育成する 全員参加型の授業づくり ～思考過程の可視化と共有の工夫を通して～ 』とした。

研究主題の実現に向け、児童が主体的に学習に取り組めるよう、必然性のある「問うべき問い」を追究すること・既習の見方・考え方を明らかにし、めあて等を示すこと・誤答の活用等による指導技術によって全ての児童を巻き込み、全ての児童が主役となる全員参加型の授業づくりを仕組むことの3本柱を軸に算数科を中心に研究を深めてきた。その中で、問いを解決した後に新たな問いが生まれてくるといった、問いが連続する授業展開の確立や全員参加型の授業を道徳科でも展開するなど、授業の行動統一が図られていった。しかし、管理職による授業参観評価から、多くの学年で適応問題や振り返りの時間が確保できていない実態が明らかとなり、1時間で授業が完結できるよう発問の精選や導入にける時間配分の見直し、教師の主観による自力解決の時間延長の削減を行う等、タイムマネジメントの強化を図る必要性が出てきた。

そこで今年度も、昨年度と同じ研究主題のもと、先に述べた3本柱の練度を高めることに注力し、見方・考え方の成長から資質・能力を育成する組織的な授業改善を、さらに進めていく。

1 問うべき問いの設定

発問や問い返しにより、問いが連続し、いかに「主題」にせまって考えることができたか。

2 見方・考え方を働かせる

自己を見つめながら考えることができているか。

物事を多面的・多角的に考えることができているか。

3 全員参加型

子どもの発達段階に応じた多様な学習形態を仕組むことで、全員が考え、全員で議論する授業展開になっていたか。

以上の3つの柱のポイントを組織的・日常的に意識して授業を行い、「知・徳・体」のバランスのとれた児童を育成していく。

3. 研究の進め方と方法

授業（学習展開）研究にあたっては、授業の質的充実をめざして、主題設定のねらいや研究の視点に即して、研究実践をしていく。また、めざす児童像を常に意識し、子どもたちの「生きる力」として身につけていくよう実践していく。

①【問うべき問いの設定】

発問や問い返しにより、問いが連続し、いかに「主題」にせまって考えることができたか。

②【見方・考え方を働かせる】

自己を見つめながら考えることができているか。

物事を多面的・多角的に考えることができているか。

③【全員参加型】

子どもの発達段階に応じた多様な学習形態を仕組むことで、全員が考え、全員で議論する授業展開になっていたか。

＊ 研究授業だけでなく、日常の授業を工夫・改善していくために、それぞれに視点をあてた学習を展開していくよう取り組んでいく。

＊ 校内研修の中で日々の実践例を紹介しあい、事例研究を行っていく。

4. 今年度の成果と課題

【成果】

○「学校のきまりを守っている」・「通知表の行動の記録の平均」などの項目の向上から、授業改善の推進や学校教育活動全体で行う道徳教育の充実化が確実に図られていることで、道徳的に正しいとされる行動を進んで行おうとする道徳的実践意欲が向上してきている。

項 目	R5	R6
◎道徳意識調査		
道徳で自分の考えを深めたり話し合ったりしている	89%	94%
自分にはよいところがある	73%	89%
いじめはいけない	99%	99%
学校のきまりを守っている	85%	94%
◎通知表の行動の記録で以下の項目平均	91.7%	93%
「あいさつ」・「話を聴く」・「元気に遊ぶ」		
「ろう下の歩き方」・「くつの整とん」		
◎Q-Uにおいて		
学校生活満足群	61.7%	69%
◎学校評価における肯定的回答		
学校生活は楽しい	89.3%	94%
学級は楽しい	89.3%	94%
◎いじめ解消	100%	100%

○算数科を基に研究を続けてきた【問い、見方・考え方、全員参加型】の3本柱を、道徳科を中心に他教科で捉えなおし、授業実践に生かすことができたことにより、研究に深みが増した。

【課題】

- 国語科や社会科など、まだまだ3本柱の捉えがあまり教科があることも事実である。
- 発問を精選したり、問い返しや切り返しを入れたりすることや、見方・考え方につながるめあてやテーマの文言はどんな内容が良いか吟味することなどには弱さが見られる。
- 子どもから自然に問いが湧き出るような授業になっていないものや、活動の座標を示しているだけで、問いが焦点化され、見方・考え方が働いていくめあてやテーマの言葉になっていない授業もある。
- 教科書の変更に伴って、学校行事等と関連付けた場合、最も教育的効果が高まるように各教科の指導時期の年間指導計画を見直す必要がある。
- 気持ちや考えと行動がつながるように、特別活動と関連付けていくカリキュラムマネジメントの部分においても、まだまだ研究が必要である。

次年度に向けて、授業づくりは学級経営が基盤であり、第一に学級経営を大事にしながら、今後も【問い、見方・考え方、全員参加型】の3本柱を、教科の特質に応じた形で捉え、学習指導要領の趣旨をふまえた能力ベースの授業を、国語や社会など、全ての教科で推進していく。そのためには、校内研等の充実を図りながら、できていることとまだできていないことの精査を行い、組織的に授業改善に取り組む体制を整えていきたい。